

資料編

文部科学省 大学間連携共同教育推進事業 事後評価調書（抜粋）

様式 1

大学間連携共同教育推進事業 事後評価調書

【公表】

| | | | |
|--------------------------|---|------|----|
| 連携の種類 | 地域連携 | 整理番号 | 19 |
| 取組名称 | 時代が求める新たな教養教育の京都三大学共同（モデル）推進事業 | | |
| 連携校 ※代表校には 下線を付すこと | 京都工芸繊維大学 京都府立大学 京都府立医科大学 | | |
| ステークホルダー | 京都府 | | |
| 関係大学 コンソーシアム 等 | 大学コンソーシアム京都 大学 I R コンソーシアム | | |
| WEBサイト | http://kyoto3univ.jp/ | | |

<概要>

【公表】

| 取組の概要（※400字以内） | （400文字） |
|---|---------|
| <p>社会の枠組みの急激な変化や東日本大震災・原子力発電所の事故により、人間の生き方、あり方もその根幹から見直しを迫られている。</p> <p>そのような時代の転換点に在るといふ認識を踏まえ、京都工芸繊維大学、京都府立大学、京都府立医科大学の国公立三大学は、本事業を活用して教養教育の共同化を行うことにより、「新しい時代の要請に応じた教養教育カリキュラム」の完成を目指す。そして、それぞれの大学の特徴・強みを生かしたカリキュラムを提供することにより、学生の多様な関心・教育要求に応え、総合的に物事を観察し的確に判断できる能力と豊かな人間性の涵養を図る。</p> <p>実施に当たっては、「京都三大学教養教育研究・推進機構」を設置し、「学部、大学の垣根を超えた学際的科目」の研究・開発や教育課程の改革サイクルの確立・学修の質の保証を図る。</p> <p>さらに、「現代の大学教育において求められる教養教育」についての提言を行うなど、社会への発信を行う。</p> | |

様式 2

【公表】

取組実績の概要（1ページ以内）**京都三大学教養教育共同化の目的**

全国初の試みである設置形態（国立・公立）や専門領域の異なる三大学の教養教育共同化を実現し、新たに構築した「新しい時代の要請に応じた教養教育カリキュラム」により三大学の学生が共に学ぶことで、深い教養に裏打ちされた人材を継続的に輩出することを目的として取り組んできた。その成果と具体的な方法論を「京都モデル」として全国の大学等の教育機関・関係者に広く発信した。

（1）取組状況**一運営体制の構築一**

- ・三大学の教職員で構成する「京都三大学教養教育研究・推進機構」を設置して事業全体を統括し、実務組織として教養教育内容の開発を行う「リベラルアーツセンター（LAC）」と質保証機能を担う「教育IRセンター（EIRC）」を設置して、効果的な相互連携を図りながら事業展開に当たった。
- ・三大学の学年暦統一と月曜午後3・4・5限の集中授業設定、科目登録法や試験実施法の整合などを実現した上で新規のカリキュラムを構築し、平成26年度前期から共同化授業を開始した。
- ・平成26年9月、京都府によって三大学学生が一堂に会して学ぶことができる教養教育共同化施設「稲盛記念会館」が建設され、三大学学生の交流が一気に進んだ。

一両センターの連携によるカリキュラムと質保証の構築一

- ・「新しい時代の要請に応じた教養教育」という理念を具現すべく、少人数での討論等を中心とした「リベラルアーツ・ゼミナール」、京都の地域的・歴史的・文化的特色を活かした多様な「京都学」、上回生を対象とした高度教養教育科目、語学・異文化理解科目、文理融合科目、三大学の特色やフィールドワークを活かした科目などを新たに設計して独自のカリキュラムを構築した。
- ・独自の質保証システムを構築し、分析手法を開発した。IRとFDの基本となる学生アンケートについては大学IRコンソーシアムの学生アンケートの試行結果を基に、他大学のIR担当者を交えた研究会を開催して、独自の「授業アンケート」および「1年次生アンケート」を設計して実施した。
- ・アンケートの分析による学生の学習状況の把握や課題の洗い出しを行い、教員にフィードバックするとともに、「共同化科目担当者会議」と公開研究会で教員の授業研究と意識改革等に取り組んだ。

一外部評価体制の構築一

- ・平成24年に有識者を構成員とする「三大学教養教育運営協議会」を設け、外部評価体制を構築した。大学コンソーシアム京都理事長を座長に毎年開催。意見・助言に対し、着実にフィードバックした。

（2）取組の成果と発信

- ・共同化授業を平成26年度に68科目で開始し、翌年度から74科目に拡大した。学生の科目選択幅は各大学で約2～5倍と大幅に拡大した。履修者数は初年度5,896人、27年度6,637人、28年度7,257人と着実に増加し、交流率（他大学開講科目受講率）も毎年増加し、平成28年度は42.6%に達した。
- ・「授業アンケート」項目のうち学習成果の観点から評価できるもの4項目の指標を前期と後期で比較するといずれも向上し、共同化授業を受講したことによる学生の「自ら知識を求め、受け止め、考える能力」の向上が顕著で、教養教育共同化の成果が明らかになった。
- ・学生が自ら学ぶ活動の支援策として、学生主体の企画シンポジウム「人・サル・植物の関係から知の源流と未来を探る」と新入生歓迎内田樹講演会を開催し、夏期休業中に宿泊研修を実施した。
- ・平成28年11月に本事業の方法論と成果を「京都モデル」として全国に発信するためのフォーラム『今、求められる教養教育—京都からの発信—』を開催した。学生による発表も交えた基調報告に対し、三大学教養教育運営協議会専門委員である講師から教養教育共同化の所期の目的を達成しているとともに、今後更なる発展を期待する旨の発言があった。また、29年3月開催の大学コンソーシアム京都FDフォーラム等でも発表を行い、成果と具体的な方法論の発信に努めたほか、取組と成果の詳細については、毎年度、報告書にまとめ関係機関に送付するとともにHPに公開している。

（3）補助期間終了後の継続展開

- ・平成29年度からは「三大学教養教育研究・推進機構」を中心にマネジメント体制を敷く中で事業を継続展開する。教養教育の新潮流を先取りすべく、上回生対象の高度教養教育科目の充実を図るなど科目数は80科目にまで拡充するとともに、新規科目の設計により授業時間を午前にも拡大した。
- ・運営経費は三大学の学生数に応じて相互負担し、京都府から引き続き専任職員派遣を受ける。
- ・教養教育共同化施設に隣接する府立京都学・歴史館、府立植物園等「北山文化環境ゾーン」立地施設と連携・協働した教養教育の展開を図り、その実践を通して多様で幅広い交流を一層進める。

様式 2

| I. 教育改革 | |
|--|---------------|
| ①教育プログラム・質保証システムの構築（1ページ以内） | |
| ※申請書に記載した大学間連携の戦略や連携取組の趣旨・目的、取組の達成目標・成果を踏まえ、連携を通じた教育プログラムや質保証システムが構築されたか。また、その内容は、取組の趣旨に照らして適切か、具体的に説明してください。 | 自己評価 5点/5点 |
| <p>(1) 「教養教育共同化」の体制とカリキュラムの構築</p> <p>三大学では本事業採択後直ちに体制とカリキュラムの構築に着手し、平成24年10月に三大学教職員で構成する京都三大学教養教育研究・推進機構（以下「機構」）を設置した。機構には「リベラルアーツセンター（LAC）」と「教育IRセンター（EIRC）」を設置し、科目やカリキュラムの設計と質保証を連携して取り組み、平成26年度から授業を開始するとともに、事業全体の改善・充実を図ってきた。</p> <p>①共同化授業の実施上の特徴と履修状況（別添資料 p2 ①、②参照）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国初の取組である教養教育共同化は従来の「単位互換」とは異なり、リベラルアーツ系を中心に各大学が提供する科目を自大学の科目として取扱うもので、学生の科目選択の幅を2～5倍に広げた。 ・共同化授業は毎週月曜日午後に通時間割が編成できるよう三大学の学年暦を一致調整して開講し、履修登録期間も三大学で統一した。平成29年度からは科目を拡充し、午前にも開講時間を拡張する。 ・三大学の学生が混在して共に学べるように、マスプロ授業を避け最大200人規模を原則とし、科目ごと大学ごとに定員設定を行うとともに、学生の履修希望に応えられるよう、抽選の余剰定員を調整して定員の無駄を減らすなどの制度改善を逐次実施してきた。 ・共同化の理念・趣旨や科目の概要をまとめた「受講案内」を配付するとともにガイダンスを行い履修率向上に努めた。28年度の履修者総数は7,257人で、共同化授業を開始した26年度より23.1%増加するとともに、交流率（他大学開講科目受講率）も毎年増加し、28年度は42.6%に達した。 <p>②特徴ある科目構成の実現と科目選択幅の大幅な拡大（別添資料 p3 ④参照）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・LACは他大学の教養教育の実態調査研究等をもとに共同化の理念に基づいた科目群の構成や新規科目の設計を行うとともに、EIRCと連携して共同化の理念、教養教育の意義や重要性が学生に十分周知・理解されるよう、「受講案内」における授業目的の明示化や受講ガイダンスの強化に取り組んできた。 ・28年度は、人文系、社会系、自然系をバランスよく配置し、少人数による討論を中心としたリベラルアーツ・ゼミナール9科目、京都の特色を諸側面から学べる「京都学」12科目をはじめ特徴ある74科目を揃えた。さらに、上回生を対象とした高度教養教育「英語で京都」、「時間生物学特論」などの科目拡充にも努めてきた（科目数は初年度68、27・28年度74、29年度は80科目に拡充する）。 ・カリキュラムマップを作成して、学生が科目構成を理解し、履修計画を立てやすいようにした。 <p>③京都府による取組の支援と専用施設の活用（別添資料 p2 ③参照）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三大学の学生が一堂に会して学ぶことができる教養教育共同化施設「稲盛記念会館」がステークホルダーである京都府により平成26年9月に京都府公立大学法人に出資され、同年後期から活用してきた。 <p>(2) 質保証システムの構築</p> <p>①アンケートの設計</p> <ul style="list-style-type: none"> ・EIRCは独自の質保証システムを構築し、分析手法を開発してきた。IRとFDの基本となる学生アンケートについては大学IRコンソーシアムの「1年生アンケート」および「上級生アンケート」を京都府立大学の文理2学科で試行し、その内容や結果を分析するとともに、他大学のIR担当者を交えた研究会を開催して、機構独自の「授業アンケート」および「1年次生アンケート」をゼロレベルから設計して実施した。 <p>②アンケートのフィードバック（別添資料 p4 ⑦参照）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの分析による学生の学習状況の把握や課題の洗い出しを行い、教員にフィードバックするとともに、「共同化科目担当者会議」と公開研究会で教員の授業研究と意識改革等に取り組んだ。また、「三大学教養教育運営協議会」と外部専門委員からの助言についても運営に反映した。これらの成果は三大学のFDのみならず、京都府立大学の主題別履修モデルのコース設定（「京都学」を始めとする9テーマ）や京都工芸繊維大学の科目ナンバリングの実現といった教育システムの具体的な新設や改善に繋がることとなった。 | |

- 2 -

（代表校名：京都府立大学、取組名称：時代が求める新たな教養教育の京都三大学共同（モデル）推進事業）

様式 2

②教育改革の成果・改善（1ページ以内）

※本取組により、学生の能力向上等の成果が見られたか。また、成果の客観的な測定方法・指標に基づいた分析結果を教育プログラムや質保証システムの改善に反映させているか、具体的に説明してください。

| |
|-------|
| 自己評価 |
| 5点/5点 |

(1) 学習効果の検証と成果（別添資料 p4 ⑥参照）

教育の効果や能力向上に関する指標を「授業アンケート」をもとに作成して数値から成果を分析した。

① 前期と後期の指標数値の変化（個々の学生の学修成果）

アンケートの質問項目 14 のうち、「教養教育の学習成果」という観点で評価できると考えられる次の 4 項目を選択し、全科目についての 5 段階評価（5 強く思う、4 やや思う、・・・1 全くそう思わない）における 3 年間の平均数値を比較した（前期→後期）。前期と後期の変化に注目した理由は、科目構成や数に大差がないので、半年間の教育を受けた後では学生の総合能力が向上していることが読み取れるからである。

- ・(1)この科目や関連する分野特有の視点や手法を学んだ（3.92→4.03）
- ・(4)自らの生き方を考え、高い倫理観を培った（3.18→3.37）
- ・(8)論理的に思考する力が高まった（3.26→3.41）
- ・(14)授業内容に触発されて、関連分野をより深く学びたいと思った（3.63→3.73）

いずれも明らかに上昇しており、わずか半期で学生の能力が大きく向上していることが裏付けられた。

② 年度毎の推移（教育成果）

年度毎の推移は学生の能力とともに、教育機能の向上をも反映していると考えられる。そこで、自主学習を促す教育機能の向上と学生の学びの質の向上の指標となる項目として、項目(2)・(6)を選択し、全科目についての 5 段階評価の数値の推移を検討したところ、どちらも明らかな向上が認められた。



(2) 1 年次生アンケートに見られた課題の改善対応

毎年、後期の授業終了時に「1 年次生アンケート」を実施し、履修登録、設備、大学間の交流状況、移動などにおける課題の洗い出しを行った。抽選制度などの重要事項については直ちに改善対応を行い、次年度では大幅な改善を見た。また、自由記述欄の学生からの質問に対しては Web 上で回答した。

(3) 教育改善への反映（別添資料 p4 ⑦参照）

授業担当者には担当科目の「授業アンケート」各質問の数値と全体の平均値が通知され、改善を図れるようになっている。教育 IR センターが分析結果から洗い出した重要な課題については「共同化科目担当者会議」で議論され、具体的な改善が図られてきた。例えば、項目(13)「成績評価の方法や基準」については、問題意識と具体的な方法論の共有によって、著しい向上がみられる。

これらの分析結果や対応は運営委員会で逐次報告・議論され、事務担当者を含めた三大学の当事者で共有されるほか、外部評価機関である運営協議会や外部専門委員にも報告され、意見や提案を受けてさらなる改善が図られてきている。具体的には、新規科目の構築や午前中への時間割の拡大が実現したほか、担当教員に周知を図ってシラバスを充実させるとともに、「受講案内」に記載の教養教育共同化の理念や各授業の意義・目的をよりわかりやすく丁寧に説明するよう毎年改訂を重ねた。その結果、「1 年次生アンケート」で「受講案内」が「大いに役に立った」、「役に立った」という回答が大幅に増加し（平成 26 年 37.0%→平成 28 年 49.6%）、「受講案内」を通じた教養教育共同化の理念と授業目的の周知が着実に効果を上げてきたと判断される。



- 3 -

（代表校名：京都府立大学、取組名称：時代が求める新たな教養教育の京都三大学共同（モデル）推進事業）

様式 2

③各連携校の教育改革の進展（取組全体の状況 0.5 ページ以内 + 代表校を含む取組の連携校数 × 0.5 ページ以内）

※本取組により、個々の連携校において具体的な教育改革の進展が見られたか、具体的に説明してください。

| |
|-------|
| 自己評価 |
| 5点/5点 |

【取組全体】

（1）カリキュラム改革

①「カリキュラムマップ」の作成（別添資料 p3 ④参照）

本事業では、小規模校である個々の大学では困難であった教養教育カリキュラムの充実を、カリキュラム改革によって実現した。京都府地域に根ざした三大学は、単に専門性を有した人材の育成ではなく、多様な事象に関心を持ち、総合的に物事を観察し、的確に判断できる能力と豊かな人間性を持つ人材を継続的に育成・輩出し、地域の活力や福祉の向上に寄与することを目的としている。そのため、共同化教養教育の目標に A「幅広い基礎的知識の修得」・B「多様な人間世界の事象に触れ人々の生き方を感受し思考する」・C「真理と正義に係る多面的な議論や論考に習熟する」の3点を掲げ、各科目がどの目標に重点を置いているかを学生にわかりやすく説明するため、目標を可視化したカリキュラムマップを授業案内に明示している。授業目標として上記のCを挙げる科目は共同化授業を開始した26年度には33科目であったが、28年度には38科目、29年度には39科目に増やし、三大学の学生が議論する機会を提供する、共同化のメリットを活かしたカリキュラムを設計している。

②三大学が連携した科目開発

三大学共同化でしか実現できないカリキュラムを構築するために、三大学の特色を活かした科目、他機関と連携する科目も開発した。隣接する植物園でのフィールド学習を取り入れた「意外と知らない植物の世界」や「近代京都と三大学」をはじめとする三大学にわたるリレー講義によって、受講生が視野を広げる機会を提供している。

（2）教養教育の質保証システムの構築

①「対話とフィードバック」の取組を共有し、単位の実質化を図る—授業アンケートの実施—

平成26年度より全ての共同化科目で「授業アンケート」を実施し、三大学学生の学習行動の推移をモニタリングしている。その結果、予習・復習・自主活動について指示するシラバスの充実、成績評価の方法の工夫などが見られた。

②共同化科目担当者の意識改革—コミュニティ意識の醸成—（別添資料 p4 ⑦参照）

共同化授業を担当する教員には、他大学・他学部の学生にもわかりやすく教える工夫、成績評価上の工夫が求められる。これらの課題は「教員アンケート」結果報告や「共同化科目担当者会議」で共有されFD活動の機会が広がった。共同化前は理系学生のための専門基礎として位置付けられていた科目も、科目担当者会議では大学の枠を超えて文系学生の履修を促すため、「理系教養科目の授業をどう工夫するか?」といったテーマで教育実践を報告し合い、その工夫を共有するなどの取組を進めている。

【京都府立大学】（代表校）

（1）教養教育カリキュラム全体の改革

・平成24年度の本事業採択以来、京都府立大学は共同化の実施に向けた3大学間の調整における中心的役割を果たしてきた。工学系単科大学・医科大学との共同化には、提供する科目の種類とバランス・履修者数の配分など、幾多の課題があったが、緊密な連携をとって実施に至ることができた。

・本学からは、充実している「京都学」をはじめとする人文・社会・自然科学にわたる科目を共同化授業に提供している。平成27年度には教養教育センターが中心となり、三大学共同化を踏まえた本学の教養教育全体の改革に着手し、「導入科目」「地域に学ぶ科目」「キャリア育成科目」「上回生対象科目」の充実を図り、共同化授業と連動した学び続ける教養教育を主旨とする新カリキュラムを策定した。29年度からの実施にあたっては、系統だった学びを促すため「テーマ別の履修モデル」を新たに提示した。

（2）学修の質保証の取組

・学生の意見を改革に反映させるため、平成26年度以降、教養教育センターの主催で「学生ワークショップ」を毎年開催して、教養教育ガイダンスの充実・上回生対象科目の新設・アクティブラーニングの機会増加等の改善へと結びつけている。

・平成28年度に各学部・学科の3つのポリシーを、より教養教育を重視したポリシーに改定した。

・学びの質的充実のため、全学的な入試・単位修得状況・成績の追跡調査を行い、その分析結果を反映したCAP制とGPA導入の具体案を策定した。平成30年度入学生から適用するために、成績評価基準の平準化や授業外学習時間の確保に向けた教学システムの見直しを行うとともに、FD・SD活動による教職員

- 4 -

（代表校名：京都府立大学、取組名称：時代が求める新たな教養教育の京都三大学共同（モデル）推進事業）

様式 2

の意識改革を進めている。平成 28 年度の全学 FD 研究集会では教養教育改革の全学周知と三大学教養教育共同化の振り返りを行った。

【京都工芸繊維大学】

・本取組による教育改革として、京都工芸繊維大学では平成 26 年度から学部・夜間主コースを除く全 9 課程の卒業要件において、共同化科目を主要構成要素とする基本教養科目のバラエティの広がりを学生が実際に享受できるように、3つのカテゴリー「人と社会」「人と文化」「人と自然」のそれぞれの中から 2 単位ずつの計 6 単位を選択必修と指定した。

・科目ナンバリングについては研究と実務の両面で京都三大学教養教育研究・推進機構、特に教育 IR センターと連携しながら開発を進めた結果、平成 28 年度から全学に導入することができた。

その内容は、共同化科目を含む学部・大学院に提供している全ての授業科目を、レベルや学問分類毎に分類し特定の番号を付与するもので、学修の段階や順序等を表し、教育課程の体系的性を明示する仕組みとなっている。

・共同化科目の実施に際し、三大学で学年暦や時間割の調整を行ったことを契機として、本学では後学期の授業を 9 月から開始できるよう柔軟な学事暦を導入するとともに、共同化科目・言語科目・専門基礎科目等の共通科目に関する時間割のゾーニングを徹底することができた。

【京都府立医科大学】

・京都府立医科大学では、医学科・看護学科とも学生は卒業後、医師や保健師・助産師・看護師といった高度専門職業人となることが前提であり、多様な社会ニーズに対応できるように、基礎となる柔軟な社会性を育むことを念頭に取り組んだ。平成 26 年度から教養教育カリキュラムの中に月曜日午後の 3、4、5 時限目に開講される三大学教養教育共同化科目を組み込み、修得した単位は、2 学年への進級要件の単位として認められることとした。このことにより学生の選択肢が医学科では共同化前の 34 科目から 28 年度には 94 科目へ、そして看護学科では同じく 17 科目から 84 科目へと、従来よりも大きく広がり豊かな教養や幅広い基礎知識を修得することが可能となった。例えば、「現代社会とジェンダー（京都府立大学提供科目）」を受講した医科大学学生は、看護や医療といった立場から性的マイノリティー問題について深く考察することができた。また機構提供科目である「意外と知らない植物の世界」を受講した医学科学生は、自学提供の講義では扱うことの少ない分野に触れることができた。

一方、医大から三大学に提供する科目の中で、平成 27 年度から上回生・大学院生を対象の集中講義として「時間生物学特論」を開講しており、この分野で世界をリードしている医大教員が概日リズムの形成や機能、そして疾患や健康へのかかわり等を紹介し、府立医大の「知」を発信する科目として注目を集めている。同様な目的で、平成 29 年度後期からは「医学概論」を提供することが決まっており、副学長を中心に講義内容が企画されている。

・看護学科では、キャンパスが異なることから、月曜日は、午前の看護学科の授業を教養教育共同化施設で実施することで、午後の共同化授業を受けやすい環境を整えた。また、新入生オリエンテーション時の模擬講義や先輩による「リベラルアーツの受講の薦め」を企画し、学生の履修向上に努めた。

・医学科では、参加型臨床実習時間の大幅な増加を企図した国際認証型新カリキュラム改訂が平成 26 年度入学生から導入されている。このカリキュラム改訂にあわせ教養教育科目のうち、医療倫理学、医療文化史学、そして医療統計学などの倫理に関係する教育については、モチベーションの高い上級学年で専門教育と並行するかたちで開講した。こうした教養・専門科目の垂直的連携により学習効果を高めているところである。

・29 年度内には、統合的な教育を入学時から卒業後まで行うため、新たに教育センターを設置することとしている。同センターの作業部会は学生代表やカリキュラム主任の若手教員を含めた構成とすることによって、教養教育科目から専門基礎科目及び臨床科目までを継続的・縦断的に検証・評価し、教育課程全体をブラッシュアップしていく体制整備を予定している。

様式 2

| | | | | | | | | | | |
|--|---|---------------|----------|---|----------|------------------------------|----------|---------------------------------------|----------|-----------------------------|
| ④成果の波及（1ページ以内） | | 自己評価 5点/5点 | | | | | | | | |
| ※本取組の成果を広く連携校以外の他大学等へ波及・還元するための方法は効果的か。また、波及効果は見られたか、具体的に説明してください。 | | | | | | | | | | |
| （1）連携校以外の他大学へ波及・還元するための方法とその成果 | | | | | | | | | | |
| ①京都三大学教養教育共同化フォーラムの開催 （別添資料 p5 ㊸参照） | | | | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・平成 28 年 11 月に本事業の方法論と成果を「京都モデル」として全国に発信するためのフォーラム『今、求められる教養教育—京都からの発信—』を、約 100 人の参加を得て開催した。 ・当日は、リベラルアーツセンター長、教育 IR センター長による基調報告に加え、リベラルアーツ・ゼミナールやフィールドワーク科目を受けた学生からの学びの成果発表、学生シンポジウムや講演会など自主的活動を行った学生や宿泊研修に参加した学生からの主体的な学びの実践例について、7 組（11 人）の学生に発表する機会を設け、学生参画型の FD のあり方も示した。 | | | | | | | | | | |
| ②教養教育の質保証に関する「公開研究会」の実施 （別添資料 p6 ㊹参照） | | | | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・本機構は平成 24 年度より、新たな教養教育のあり方に焦点をあてた公開研究会を開催し、全国の教養教育研究拠点の役割を果たしている。（計 16 回開催、98 大学・機関参加） ・本機構が主催する公開研究会は、大学コンソーシアム京都、京都大学高等教育研究開発推進センターに告知協力いただき、それらのメーリングリストを活用して全国の教職員に案内した。 | | | | | | | | | | |
| ③大学コンソーシアム京都と連携した FD の実施 | | | | | | | | | | |
| <p>大学コンソーシアム京都が主催する「FD フォーラム」は、参加者数が 1000 人規模の国内最大の質保証フォーラムである。本機構は、平成 25 年度より FD フォーラムに参画し、科目担当者による教育実践報告とポスター発表を実施してきた。28 年度には本機構の教養教育共同化施設「稲盛記念会館」を会場にして「第 22 回 FD フォーラム」を開催した。「第 22 回 FD フォーラム」では 1 シンポジウム、15 分科会が開催され、本機構はシンポジウム「大学の教育力を発信する—教養教育改革と現代社会—」とポスター発表「教養教育の大学間連携から生まれた学生交流」を担当した。</p> <p><大学コンソーシアム京都「FD フォーラム」における教育実践報告></p> <table border="1"> <tr> <td>平成 25 年度</td> <td>京都三大学教養教育研究・推進機構のコンセプトと大学間連携の新段階—「リベラルアーツセンター」による教学企画と「教育 IR センター」による質保証—</td> </tr> <tr> <td>平成 26 年度</td> <td>数学の教養教育の試み（共同化科目「人と自然と数学 α」）</td> </tr> <tr> <td>平成 27 年度</td> <td>「伝えること」と「伝わること」の違い（共同化科目「アメリカと中国はいま」）</td> </tr> <tr> <td>平成 28 年度</td> <td>現代「教養教育」の課題（共同化科目「エネルギー科学」）</td> </tr> </table> | | | 平成 25 年度 | 京都三大学教養教育研究・推進機構のコンセプトと大学間連携の新段階—「リベラルアーツセンター」による教学企画と「教育 IR センター」による質保証— | 平成 26 年度 | 数学の教養教育の試み（共同化科目「人と自然と数学 α」） | 平成 27 年度 | 「伝えること」と「伝わること」の違い（共同化科目「アメリカと中国はいま」） | 平成 28 年度 | 現代「教養教育」の課題（共同化科目「エネルギー科学」） |
| 平成 25 年度 | 京都三大学教養教育研究・推進機構のコンセプトと大学間連携の新段階—「リベラルアーツセンター」による教学企画と「教育 IR センター」による質保証— | | | | | | | | | |
| 平成 26 年度 | 数学の教養教育の試み（共同化科目「人と自然と数学 α」） | | | | | | | | | |
| 平成 27 年度 | 「伝えること」と「伝わること」の違い（共同化科目「アメリカと中国はいま」） | | | | | | | | | |
| 平成 28 年度 | 現代「教養教育」の課題（共同化科目「エネルギー科学」） | | | | | | | | | |
| ④大学教育学会におけるラウンドテーブルの実施 | | | | | | | | | | |
| <p>本機構は平成 26 年度より 3 年間、大学教育学会においてラウンドテーブル「教養教育の本流」を開催した。ラウンドテーブルの企画者には、全国の国公私立大学（東京農工大学、山形大学、高崎経済大学、愛知淑徳大学、大阪体育大学、成城大学）の教養教育担当者を加え、他大学の教職員にも開かれた教養教育のラウンドテーブルを継続的に開催した。毎年度、全国から 40 名程度の参加者があった。ラウンドテーブルでの議論は『大学教育学会誌』に投稿することで公開している。</p> | | | | | | | | | | |
| ⑤新聞社等マスコミを通じた取組の発信 | | | | | | | | | | |
| <p>平成 24 年度の取組開始以後、主要新聞社やテレビ局からの取材は 20 件以上に上り、設置主体の異なる三大学による全国初の共同化事業について、全国に広く発信してきた。</p> | | | | | | | | | | |
| （2）連携校以外の他大学への波及効果（具体例） | | | | | | | | | | |
| ①教養教育の大学間連携への波及 — 教務事務の調整方法と京都学カリキュラム — | | | | | | | | | | |
| <p>「大学連携 e-Learning 教育支援センター四国」からの視察があり「単位互換」と「共同化」の違い、「京都学」関連科目のカリキュラムについてヒアリングを受けた。また、大阪府立大学・大阪市立大学や日本大学本部から、共同化に伴う教務事務の調整について調査を受けた。このように、「共同化」を進める上で課題となる教務事務、学年暦の統一といった制度構築のノウハウ、地域の歴史や文化をテーマとしたカリキュラム構築の方法に波及効果が見られる。</p> | | | | | | | | | | |
| ②他大学・高等学校の高大接続科目への波及 | | | | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・他大学の「初年次教育科目」や高等学校の「課題学習（探究学習）」へ波及している。 ・例えば、共同化科目「人と自然と数学 α」は「数学史」に着目することで、文系学生も視野に入れた数学カリキュラムの構築や高等学校で「数学活用」を担当する教員にとって参考となった。 ・共同化科目「現代社会に学ぶ問う力・書く力」は、フェリス女学院大学、名桜大学、京都ノートルダム女子大学、京都文教大学の FD に招かれ、初年次教育のカリキュラム事例として紹介された。また、滋賀県立彦根東高等学校と「論理的思考力」の育成を目的とした教材の共同開発へとつながった。 | | | | | | | | | | |

様式 2

II. ステークホルダーとの協働・評価

①ステークホルダーとの協働（1ページ以内）

《地域連携の取組》学生を送り出す地域のステークホルダー（自治体、経済団体、企業、NPO等）との間で課題の共有が十分に図られ、実行の段階でステークホルダーと協働した取組が進められたか。また、ステークホルダーの満足度の向上や連携関係の強化等、ステークホルダーとの関係に深化が見られたか、具体的に説明してください。

《分野連携の取組》専門分野や教育機能のステークホルダー（学協会、経済団体、職能団体等）との間で課題の共有が十分に図られ、実行の段階でステークホルダーと協働した取組が進められたか。また、ステークホルダーの満足度の向上や連携関係の強化等、ステークホルダーとの関係に深化が見られたか、具体的に説明してください。

| |
|-------|
| 自己評価 |
| 5点/5点 |

（1）京都府による教養教育共同化施設「稻盛記念会館」の建設（別添資料 p2 ④参照）

・ステークホルダーである京都府は、平成 26 年 9 月、教養教育を行う新たな知の交流拠点として、教養教育共同化施設「稲盛記念会館」を京都府立大学下鴨キャンパス内に建設した（総工費約 28 億円）。なお、この施設整備に当たっては、京セラ株式会社の創業者であり、京都、日本の経済界で活躍されている稲盛和夫氏から、教養教育共同化の趣旨に賛同いただき 20 億円のご寄付をいただいた。
・当施設の竣工により、平成 26 年度前期は三大学分散しての授業であったが、後期からは、共同化施設での授業が可能となり、三大学学生の交流が一気に進んだ。

（2）京都府からの人的支援

京都府からは、教養教育共同化事業を推進するため、事業採択された平成 24 年度から専任の事務職員の派遣を受けている。とりわけ、25 年度からは、専任の管理職が配置されるとともに、公立大学法人本部における強固な支援組織と相まって、共同化事業を支えている。補助期間終了後の 29 年度も、引き続き同様の支援を受ける。

（3）「北山文化環境ゾーン」立地の京都府施設との連携強化

・教養教育共同化施設「稲盛記念会館」が立地する北山地域は、府立大学、府立京都学・歴史館、府立植物園などが集積し、多様な交流により新たな文化・学術・環境を発信する「北山文化環境ゾーン」として、京都府において整備が進められている。当施設に隣接し、平成 29 年 4 月にグランドオープンの府立京都学・歴史館には、府立大学文学部、府立大学附属図書館及び府立医科大学附属図書館も一体整備され、今後は、共同化事業の展開においても幅広い相互交流が進められる環境が整った。
・平成 27 年度からは府立植物園の協力を得て植物園をフィールドとした科目「意外と知らない植物の世界」を設けているが、29 年度からは、新たに府立京都学・歴史館の協力を得て、同館所蔵の貴重資料を活用したリベラルアーツ・ゼミナールも開講することとしている。
・京都府の理解を得て、府立植物園では、これまで府立大学学生・教職員を対象に、教育・研究フィールドとして入園料の無料化が図られていたが、29 年度からは、三大学の学生・教職員に対象が拡大され、当地における三大学の教養教育の活動拠点化が一層進められることとなった。

（4）京都府による取組の評価

・京都府知事発表の「平成 26 年府政 10 大ニュース」で、人材育成・交流の基盤整備として『三大学教養教育共同化の開始及び教養教育共同化施設の竣工』を第 4 位に掲げ、京都府として大きく評価した。
・京都府が条例設置する京都府公立大学法人評価委員会での平成 25 年度評価（平成 26 年 9 月策定）において、教養教育共同化が特に注目すべき取組として高い評価を受けた。
・平成 27 年 10 月の府議会において、議員の質問に対し京都府知事は、科目数や履修者の増、京都学の開講などの取組の成果を高く評価するとともに、各大学の特色を活かした更なる展開を期待する趣旨の発言を行った。また、その後の府議会での知事答弁等においても、機会あるごとに教養教育共同化に対する期待と京都府の積極的支援について言及している。

（5）大学コンソーシアム京都、地元経済界との連携強化

・「大学コンソーシアム京都」とは、同組織主催により毎年全国規模で開催される FD フォーラムに企画段階から参画し、毎年度、教育実践を報告してきた。とりわけ、補助期間最終年度となる平成 28 年度 FD フォーラムでは、当機構教員が共同化の取り組みをシンポジウムで基調報告し、時代が求める新たな教養教育の実践例を紹介・発信した。また、当機構主催の公開研究会や府民参加の講演会等に大学コンソーシアム京都の後援を得るなど、連携した取組を積極的に進めてきた。
・京都を代表する地域金融機関「京都銀行」の協力を得て、同行職員を毎回ゲストコメンテーターに迎える京都学科目「京都の経済」を平成 29 年度に開講するなど、地元経済界の理解を得た協働事業を新たに展開することとしている。

様式 2

②外部評価の実施・反映（1ページ以内）

※ステークホルダーと協働した外部評価体制が構築され、外部評価が適切に実施されたか。また、評価結果を踏まえて取組の改善が図られたか、具体的に説明してください。

| |
|-------|
| 自己評価 |
| 5点/5点 |

(1) 「三大学教養教育運営協議会」設置による評価体制の構築

平成 24 年 10 月、外部有識者 5 名を構成員とする「三大学教養教育運営協議会」を設置し、毎年、協議会を開催の上、実効ある取組が進められているかについて、評価委員から意見・助言を伺いつつ共同化事業を進めてきた。

〔座長〕 赤松徹眞氏（～27 年度）、吉田美喜夫氏（28 年度～）（大学コンソーシアム京都理事長）

〔委員〕 柏原康夫氏（京都商工会議所副会頭）、山内修一氏（京都府副知事）、山本壯太氏（古典の日推進委員会ゼネラルコーディネーター）、冷泉貴美子氏（公益財団法人冷泉家時雨亭文庫常任理事）

(2) 「三大学教養教育運営協議会」開催による外部評価の実施

- ・平成 25 年度は、翌年度からスタートする教養教育共同化の大枠が固まった 10 月末に共同化の理念・目的や共同化科目案を主要資料に会議を開催し、進捗状況を報告の上、意見を伺った。
- ・共同化事業開始年となる平成 26 年度は、共同化科目に係る前・後期の履修登録状況が判明する 10 月中旬に開催した。なお、当日は、下記に記載の別途委嘱した専門委員 3 名にも同席を求め、専門的見地からの意見を同時にいただいた。
- ・平成 27 年度は 11 月中旬に開催。補助期間最終年となる平成 28 年度は、翌年度からの体制や予算状況が判明する 1 月中旬に開催し、今後のあり方も踏まえ意見を伺った。

(3) 「三大学教養教育運営協議会」専門委員による評価

- ・共同化授業がスタートした平成 26 年度は、より専門的な見地から外部評価を進めるため、教養教育に高度な識見を有する次の 3 名を専門委員に委嘱し、事前に諸資料を配付して説明を行い、意見書の作成を求めた。

江原武一氏（立命館大学教育開発推進機構教授） 圓月勝博氏（同志社大学教授・文学部長）

小笠原正明氏（大学教育学会会長） ※いずれも平成 26 年度当時の役職を記載

- ・補助期間最終年となる平成 28 年度は、これまでの取組の評価と今後の展望について、26 年度に評価いただいた圓月勝博氏（同志社大学副学長）に再度専門委員を委嘱するとともに、28 年度報告書を作成するに当たり、運営協議会座長である吉田美喜夫氏からも改めて意見をいただいた。

(4) 共同化準備段階（平成 25 年度）の協議会による評価と対応

- ・カリキュラム構成等大枠について委員の賛同を得る中で、①共同化の理念・目的や「京都学」の一環で京都が持っているものを広く府民に説明・公開する、②学生が京都在住の有識者の話を聞けるようにする、③学生交流の更なる工夫や学生移動に伴う自転車駐輪対策などの具体的な意見が出された。
- ・これらの意見については、①理念等を分かりやすく整理の上、パンフレット作成や新聞掲載による府民周知や共同化授業の一環として、三大学の所蔵品、教材等を展示する「京都学事始展」を開催、②歌人、細胞生物学者として著名な永田和宏氏による学生向け講演会の開催、③学生交流の推進に向け、三大学の学生クラブ・サークル等を対象とした他大学との交流実績・交流意向のアンケート調査やキャンパス内の駐輪場拡張・ガードマンの配置をそれぞれ行った。

(5) 共同化実施後（平成 26 年度～）の協議会による評価と対応

- ・会議では、専門委員作成の意見書をはじめ履修登録等の諸資料を基に議論が行われた。委員から教養教育共同化の取組は高く評価されたが、カリキュラムの科目群の見直し、受講者数の偏りについての検討、北山地域連携科目の検討、ゼミ科目の充実、共同化科目の成績評価のあり方の検討、大学間移動に伴う学生負担の検討などの意見が出された。
- ・これらの意見については、機構のリベラルアーツセンター、教育 I R センターで研究・検討を行う中で、カリキュラムの科目群に小分類を設け科目の狙いをより分かりやすくすることや、学生の履修希望に応じた定員調整の工夫、隣接する府立植物園や府立京都学・歴史館と連携した科目創設、リベラルアーツ・ゼミナールや語学・異文化理解科目等上回生対象科目などの拡充、「共同化科目担当者会議」の開催による授業研究や成績評価方法の情報共有など、順次取組を進めてきた。

(6) 補助期間最終年（平成 28 年度）の協議会による評価等

- ・共同化事業開始後 3 年間の成果の報告と新たなステージを迎える平成 29 年度の展開計画を説明する中で、委員からは、全国の小規模大学にとって大変参考となる当事業に自信を持ち、成果を広く発信すること、将来の志向が異なる学生たちの交流促進や既に動き出している学生主体の課外活動の更なる支援、三大学の専門性や特色を活かした科目の一層の充実などの意見と期待が寄せられた。これらの意見を踏まえ、補助期間終了後も、一層取組を進めることとしている。

様式 2

Ⅲ. 取組の実施体制・継続発展

① マネジメント体制の構築（取組全体の状況 0.5 ページ以内 + 代表校を含む取組の連携校数 × 0.5 ページ以内）

※代表校を含む連携校各校において、学長（校長）を中心とした責任あるマネジメント体制が構築され、代表校・代表校以外の連携校との間の役割分担の明確化や教職員の配置等が図られたか、具体的に説明してください。

| |
|-------|
| 自己評価 |
| 5点/5点 |

【取組全体】

（１）三大学学長のリーダーシップによる教養教育共同化の実現

本事業は、連携する三大学が抱えていた小規模校であるための制約を打破する、全学生を対象とした一大事業である。本事業の基礎は、京都府の協力のもと、京都府立大学が中心となって京都工芸繊維大学・京都府立医科大学と共に教養教育共同化を進める議論を開始し、三大学の歴代学長のリーダーシップのもと、単位互換やヘルスサイエンス分野の共同研究、学生の研究発表、課外活動などで交流を拡大しながら、共同化への具体的な調整を進めてきたことにある。平成 24 年度に本事業が採択されたのを機に設立した「京都三大学教養教育研究・推進機構」は、三大学学長が推進役となって、これまでにない教養教育を実施すべく三大学の教職員、新たに雇用した特任教員・専任職員によって組織されたものである。

（２）機構のマネジメント体制

共同化施設内に本事業の運営を担う「京都三大学教養教育研究・推進機構」の事務局が置かれ、三大学の学生・教員をまとめる役割を果たしている。本機構はその発足に当たり、三大学学長・副学長会議で基本方針を確認し、最終的な意思決定機関である「運営委員会」、教養教育の内容・方法の研究・開発にあたる「リベラルアーツセンター」、教育の質保証に関わる事業を担う「教育 IR センター」を設置した。運営に当たっては、「運営委員会」のほかに、副学長会議や運営委員長・両センター長・三大学の教務担当職員・機構職員で実務上の課題を整理する「両センター長会議」を開催している。

（３）機構の教職員の配置と運営等

運営委員会は三大学の副学長、リベラルアーツセンター及び教育 IR センターの教員等で構成し、委員長は、代表校である府立大学の副学長が就いている。2つのセンターは、それぞれ三大学から教養教育を担当する各 1 名の兼任教員と機構の教員とで構成し、三大学の兼任教員が 2 年任期でセンター長を担っている。これらの組織は、月 1 回程度定期的に会議を開催しており、三大学の教務等担当職員及び機構の専任職員も参画している。機構での意思決定は、運営委員会と両センター委員会で提起や議論を行い、整理した原案を運営委員会を通して各大学に持ち帰り、意見等を運営委員会にフィードバックさせて行っている。

【京都府立大学】（代表校）

- ・京都府立大学では、機構の運営委員長に就任している副学長が教務部長として教養教育、専門教育、キャリア教育を束ねている。平成 26 年度から、共同化授業の開始に対応して教養教育の改革を進めるため、それまで教務部長が兼任していた教養教育センター長を新たに学長が任命し、教育研究評議会委員とするなど、教養教育の重要性を意識した人事が行われている。
- ・教務部長が教養教育センター長と協働して、三大学共同化教養教育について教務部委員会・教養教育センター委員会で議論し、教養教育体系全体を見据えながら、改善を図っている。なお、平成 29 年度からは、教養教育センター長も機構運営委員会に参画することとしている。
- ・本学の専任教員が機構のリベラルアーツセンターと教育 IR センターの兼任教員となって、センター長等の中心的な職務を遂行し、三大学間の合意形成を図るなど、機構における意思形成・事業展開に責任を持つ体制を組んでいる。
- ・本連携事業に対応する専門職員を機構に配置し、事務体制を整えている。
- ・全学的な協力を得るため、学長・副学長会議や企画・推進会議を通じて共同化の取組が管理職に共有され、部局長会議を通じて全学的に共有されている。

【京都工芸繊維大学】

京都工芸繊維大学では、理事・副学長 1 名と人間教養科目担当教員から選出された教授 2 名が本連携事業の担当者として、京都三大学教養教育研究・推進機構運営委員会委員を務めている。担当理事・副学長 1 名は機構の副学長等会議の委員も兼任し、2 名の教授はそれぞれリベラルアーツセンターと教育 IR センターの委員を兼ねている。また、平成 26 年度以降は教育 IR センター長を本学の

様式 2

教授が担当している。

本取組みに関する検討事項等については、総合教育センター（運営委員会、教育プログラム部会、教養教育検討ワーキンググループ）および役員会等において審議を行い、学内の合意形成を図っている。学生の受講登録情報やアンケート結果等についても、それらの会議においてフィードバックしている。

更に、本連携事業に対応する専門職員を学務課に配置し事務体制を整えるとともに、共同化授業を実施する月曜日には、教養教育共同化施設に職員を派遣し、機構事務局と連携しながら円滑な授業実施に取り組んでいる。

上記の体制は、補助期間終了後の平成 29 年度も維持することとしており、この取組が継続発展できるような体制を整えている。

【京都府立医科大学】

・京都府立医科大学では、教育担当の副学長を筆頭に、学生部長、教養教育部長、教養教育担当教授が京都三大学教養教育研究・推進機構の運営委員会メンバーとなり、機構の意思形成はもとより、リベラルアーツセンターや教育 I R センターにおける調査・研究事業に積極的に参画してきた。また、平成 29 年度からは、これまでオブザーバーとして参加していた看護学科長も、看護学科における教養教育推進の立場から運営委員会の正式メンバーに位置付け、運営に参画することとなった。

・本連携事業実施にあたっては、必要に応じて学内の教育委員会や学長を座長とする管理職会議等で協議の上で、教養教育共同化に係る全学的な意思形成を図っている。

・教養教育を担当する教授による会議も、定期的を開催し、その中で医科大学医学科教養教育についての意思形成を図っている。

・京都市北区大將軍にあった花園学舎において教養教育を行っていたが、平成 26 年の教養教育共同化施設の竣工を機に、花園学舎の教養教育担当教員の居室及び教養教育担当の事務部門（職員数 3 人）を教養教育共同化施設に移設した。とりわけ、医科大学教養教育を担当する事務部門については、「京都三大学教養教育研究・推進機構」事務局と同一の執務室で業務を行うこととし、相互で連携のとりやすい体制を構築し、業務推進に当たっている。

様式 2

②補助期間終了後の継続・発展の取組 (1 ページ以内)

※補助期間終了後の継続・発展のための取組のうち、

- 教職員の配置及び養成 (本取組で培ったノウハウや専門性を既存の教職員に引き継ぐことや、本取組で雇用した教職員の継続雇用等)

- 資金の調達方法やコストシェアの考え方

- 共同課程の設置や組織の再編など本取組を通じた大学間連携のメリットを活かした今後の発展

は、事業の趣旨に照らして適切か。また、具体的な取組に着手しているか、具体的に説明してください。

自己評価

5 点 / 5 点

(1) 教職員の配置及び養成

・本事業を中心的に運営している京都三大学教養教育研究・推進機構は、支援期間終了後も引き続き継続させ、従前どおりのマネジメント体制を敷くこととしている。このことにより、三大学の教職員が機構運営に直接参画することとなり、機構をハブとして運営のノウハウが三大学の教職員に引き継がれるシステムを構築している。なお、運営委員会には、平成 29 年度には、これまでのメンバーに加え、府立大学教養教育センター長及び府立医科大学看護学科長にも参画願うこととし、三大学の連携を一層緊密に行うこととしている。

・「共同化科目担当者会議」や公開研究会を開催し、より広い教職員等の参画の下で、教養教育共同化の趣旨を共有しつつ継続的に事業の改善を図ることとしている。なお、平成 29 年度では、これまでに開催してきた公開研究会等の講演録や授業に関わった教員の授業研究を冊子にまとめ、そのノウハウや知見を三大学関係者等で共有することとしている。

・共同化事業を支えてきた機構特任教員 4 名については、1 名を継続配置するとともに、3 名は非常勤講師として共同化授業を引き続き担当し、事業の円滑な継続実施を図っていく。事務局嘱託職員は 3 名を 2 名にする。

・上記事務局には、ステークホルダーである京都府から、引き続き、専任の幹部職員 1 名の派遣を受け機構運営業務を支えるなど、共同化事業の円滑な継続・発展に向けた支援体制が整っている。

(2) 事業継続に係る必要経費の三大学負担

・各大学からの共同化科目の提供科目数は、概ね学生数の割合に応じた科目数比で提供することとし、その費用は各大学が負担する。

・上記以外の機構が提供する科目に要する費用や、学生の自主的活動の支援やガイダンス資料経費、授業アンケート等の調査費用や外部評価を担う三大学教養教育運営協議会の運営費用、機構事務局人件費など事業の継続実施に係る経費 (28 年度の約 1/2) は、三大学の学生数の割合に応じ各大学で負担する。

(3) 今後の発展に向けた取組

①カリキュラムの充実

・教養教育共同化事業について、リベラルアーツ・ゼミナールや京都学科目、三大学の特色を活かした科目や上回生を対象とした高度教養教育科目を新設・拡充していく。その第一歩として、平成 29 年度は、前年度よりも 6 科目拡充するとともに、これまでの月曜日午後 3・4・5 限での共同化授業を、月曜日午前にも拡大して展開する。

・府立植物園をフィールドとした科目や府立京都学・歴史館との協働による所蔵資料を活用したリベラルアーツ・ゼミナールの開講、府立大学和食文化センターによる和食関連科目の充実など、「北山文化環境ゾーン」立地施設と連携・協働した教養教育を一層進め、その実践を通して多様で幅広い交流を展開していく。

② 質保証の取組と学生の自主活動支援、成果発信

・「新しい時代の教養教育」の質保証にとって特に重要なことは、教育が個々の担当教員に任せられるのではなく、学生の学びを精密に把握し、教育の目的・内容、方法等を開拓・改善していく教員の協働作業の形成である。授業アンケート、1 年次生アンケート及び教員アンケートを継続実施するとともに、「共同化科目担当者会議」を中心とした教員の組織的活動を引き続き実施し、質改善に取り組むコミュニティ(場)の形成を図っていく。また、教養教育の質保証に焦点をあてた研究会等を継続して企画し、全国大学のネットワーク形成にも寄与していきたい。

・学生・教職員による授業外での幅広い多面的な交流を、教育の一環に位置付け促進する。平成 27・28 年度に取り組みされたような学生の自主的活動(学生主体のシンポジウムや学生の手作りによる講演会の開催)を応援するための支援環境を整えるとともに、28 年度に成果をあげた宿泊研修をはじめ学習交流会等の課外活動に取り組むこととしている。既に学生からは熟度の高い企画提案も受けている状況にある。京都府公立大学法人では、これらの学生活動も視野に入れた支援制度を 29 年度から設けることとしており、これらを活用した事業展開を図っていく。

・これらの取組を通して得られた成果を、様々な機会を通じ全国の大学等に引き続き発信していく。

① 共同化科目履修登録者数の変化

様式 2 : p1・p2 関連

| 年度 | 大学名 | 前期 | 後期 | 計 | |
|------------|-----|-------|-------|-------|--------------------|
| ②⑥ | 工繊大 | 1,534 | 1,136 | 2,670 | 交流率 26.6% |
| | 府大 | 1,439 | 1,362 | 2,801 | |
| | 医大 | 272 | 153 | 425 | |
| | 計 | 3,245 | 2,651 | 5,896 | |
| ②⑦ | 工繊大 | 1,894 | 1,163 | 3,057 | 交流率 38.4% |
| | 府大 | 1,806 | 1,240 | 3,046 | |
| | 医大 | 422 | 112 | 534 | |
| | 計 | 4,122 | 2,515 | 6,637 | |
| ②⑧ | 工繊大 | 2,177 | 1,298 | 3,475 | 交流率 42.6% |
| | 府大 | 1,797 | 1,346 | 3,143 | |
| | 医大 | 520 | 119 | 639 | |
| | 計 | 4,494 | 2,763 | 7,257 | |
| ②⑨ (参考) | 工繊大 | 2,331 | — | — | 前期 交流率 44.9% |
| | 府大 | 1,942 | — | — | |
| | 医大 | 589 | — | — | |
| | 計 | 4,862 | — | — | |

②⑥→②⑧ 23.1%増

※交流率：科目提供大学以外の大学の履修者数をその科目の全履修者数で割った値

② 各大学の科目選択幅の拡大

様式 2 : p1・p2 関連

(共同化科目数 ②⑥ 68 科目 ②⑦②⑧ 74 科目 ②⑨は 80 科目に拡充する)

| 大学名 | 科目数 | | 倍数 (②⑨/②⑥) | |
|-------|----------|---------------|---------------|-----|
| | 共同化前(②⑥) | 平成 29 年度(②⑨)※ | | |
| 府立大 | 42 | 112 | 2.7 | |
| 府立医大 | 医学科 | 34 | 99 | 2.9 |
| | 看護学科 | 17 | 88 | 5.2 |
| 工芸繊維大 | 54 | 123 | 2.3 | |

※共同化科目(29 年度計画 80 科目)と各大学独自の教養科目の計

③ 教養教育共同化施設「稲盛記念会館」

様式 2 : p1・p2・p7 関連

(府立大学下鴨キャンパス内)



平成 26 年 9 月竣工 総工事費 約 28 億円
稲盛和夫氏から 20 億円の寄付を受ける。
鉄筋コンクリート造り
地下 1 階地上 3 階建て
延床面積 9,088.73 m²



○ 京大三大学の立地関係 ○

京都工芸繊維大学、京都府立大学、京都府立医科大学は、京都の下鴨神社を取り囲むような形で位置する。それぞれの最寄駅は、京都市営地下鉄烏丸線にあり、京都工芸繊維大学が松ヶ崎駅、京都府立大学が北山駅、京都府立医科大学が丸太町駅である。三大学ともに距離も近く、相互の行き来が十分可能である。

三大学の学生が学ぶ「教養教育共同化施設「稲盛記念会館」は、北山駅徒歩 5 分、京都府立大学下鴨キャンパス内に立地する。

別添資料-2

④ 京都三大学共同化教養教育のカリキュラム（平成 29 年度） 様式 2 : p1・p2・p4 関連

補助期間終了後の平成 29 年度は 80 科目に拡充し開講する。

A. 幅広い基礎的知識の修得、B. 多様な人間世界の事象に触れ人々の生き方を感じし思考する、
C. 真理と正義に係る多面的な議論や論考に習熟する — 各科目が、A. B. C. のどの性格を持つかを示した「カリキュラム・マップ」を作成している。

| 人間と文化（29科目） | | | 人間と社会（26科目） | | | 人間と自然（25科目） | | | | | |
|-------------|------------------|---|-------------|----------------|------------|-------------|------------|--------------|------------|---|---|
| 科目名 | 授業目的 区分 | | | 科目名 | 授業目的 区分 | | | 科目名 | 授業目的 区分 | | |
| | A | B | C | | A | B | C | | A | B | C |
| 人間と歴史 | 哲学 | ○ | ○ | 人文地理学Ⅰ | ○ | ○ | 自然科学の基礎 | 物理学Ⅰ | ○ | | |
| | 比較宗教学 | ○ | ○ | 人文地理学Ⅱ | ○ | ○ | 自然科学の基礎 | 化学概論Ⅰ | ○ | | |
| | 宗教と文化 | ○ | ○ | 社会学Ⅰ | ○ | ○ | 自然科学の基礎 | 化学概論Ⅱ | ○ | | |
| | 日本史 | ○ | ○ | 社会学Ⅱ | ○ | ○ | 自然科学の基礎 | 生物学概論Ⅰ | ○ | | |
| | 東西文化交流史 | ○ | ○ | 政治学 | ○ | ○ | 自然科学の基礎 | 生物学概論Ⅱ | ○ | | |
| | アジアの歴史と文化 | ○ | ○ | 国際政治 | ◎ | ○ | 自然科学の基礎 | 生命科学講話 | ○ | ○ | |
| | ヨーロッパの歴史と文化 | ◎ | ○ | 経済学入門 | ○ | ○ | 自然科学の基礎 | 地球の科学 | ○ | ○ | |
| | ラテン語 | ○ | ○ | 生活と経済 | ○ | ○ | 人間と自然科学 | 人と自然と数学α | ○ | ○ | |
| 文化・芸術 | 西洋文化論 | ○ | ○ | 心理学 | ◎ | ○ | 人間と自然科学 | 人と自然と数学β | ○ | ○ | |
| | 日本文学Ⅰ | ○ | ○ | 発達心理学 | ○ | ○ | 人間と自然科学 | 人と自然と物理学 | ○ | ○ | |
| | 日本文学Ⅱ | ○ | ○ | 現代社会と心 | ○ | ○ | 人間と自然科学 | 生物学的人間学 | ○ | ○ | |
| | 日本近現代文学 | ○ | ○ | 現代社会とジェンダー | ◎ | ○ | 人間と自然科学 | 意外と知らない植物の世界 | ○ | ○ | |
| | 西洋文学論 | ○ | ○ | 人権教育 | ○ | ○ | 人間と自然科学 | 科学史 | ○ | ○ | |
| | 文芸創作論 | ○ | ○ | 現代教育論 | ○ | ○ | 人間と自然科学 | 環境問題と持続可能な社会 | ○ | ○ | |
| | 美術と芸術 | ○ | ○ | 食環境をめぐる国際社会と日本 | ○ | ○ | 人間と自然科学 | 食と健康の科学 | ◎ | ○ | |
| | 日本近代精神史 | ○ | ○ | 環境と法 | ◎ | ○ | 人間と自然科学 | キャンパスヘルス概論 | ○ | ○ | |
| 京都学 | フランス語圏の文化とジャポニスム | ○ | ○ | 近代京都と三大学 | ○ | ○ | 京都学 | 時間生物学特論 | ○ | ○ | |
| | 映画で学ぶ英語と文化 | ○ | ○ | 京の産業技術史 | ○ | ○ | 京都学 | エネルギー科学 | ◎ | ○ | |
| | 映画で学ぶドイツ語と文化 | ○ | ○ | 現代京都論 | ○ | ○ | 京都学 | 現代科学と倫理 | ○ | ○ | |
| | 京都の歴史Ⅰ | ○ | ○ | 医学史 | ◎ | ○ | 京都学 | 医学概論 | ○ | ○ | |
| | 京都の歴史Ⅱ | ○ | ○ | 京都の経済 | ○ | ○ | 京都学 | 環境論 | ◎ | ○ | |
| | 京都の文学Ⅰ | ○ | ○ | 現代社会に学ぶ問う力書く力 | ○ | ◎ | 京都学 | 京都の自然と森林 | ○ | ○ | |
| | 京都の文学Ⅱ | ○ | ○ | 社会科学の学び方 | ◎ | ○ | 京都学 | 京都の農林業 | ○ | ○ | |
| | 京の意匠 | ○ | ○ | 現代社会と映画製作 | ◎ | ○ | 京都学 | 京野菜を栽培する | ○ | ○ | |
| リベラル・セミナール | 英語で京都 | ◎ | ○ | アメリカと中国はいま | ○ | ○ | リベラル・セミナール | 製品の機能から科学を学ぶ | ○ | ○ | |
| | 京都学歴史館ゼミ | ○ | ○ | 経営哲学 | ◎ | ○ | リベラル・セミナール | 京野菜を栽培する（再掲） | ○ | ○ | |
| | 現代イスラーム世界の文化と社会 | ◎ | ○ | | | | | | | | |
| | 感性の実践哲学 | ○ | ○ | | | | | | | | |
| | 科学と思想 | ○ | ◎ | | | | | | | | |
| | 京都学歴史館ゼミ（再掲） | ○ | ○ | | | | | | | | |

⑤ 共同化科目を受講した学生の評価（いずれもリベラルアーツ・ゼミナール受講者） 様式 2 : p22、p27 関連

教養教育共同化によって理系の大学にはあまりないような授業を受けることができ、とても魅力的でした。自らの専門とは異なる視点から考えてみることで、新たな発見につながることもありました。また、私が受講したゼミナールでは生き方について考えることができました。文理の垣根を超えた共同化科目には大きな可能性があります。共同化科目で学んだ広い視野や物事の見方を自らの専門にも活かし、さらに成長していきたいです。（京都工芸繊維大学 工芸科学部デザイン・建築学課程 下出大貴）

毎回の授業でレポートを書いて提出し先生にアドバイスを頂いたり、コメント用紙に質問を書くことと今回の授業でそれに答えて下さったりという細やかなフィードバックがあったので、自分の頭で考えていく学習をすることができました。教養科目を学ぶなかで、物事を考える視点や、問題解決のためのアプローチは様々にあることが分かりました。また、自らの専門分野である公共政策の立ち位置を理解するきっかけにもなって良かったです。（京都府立大学 公共政策学部公共政策学科 中村有紗）

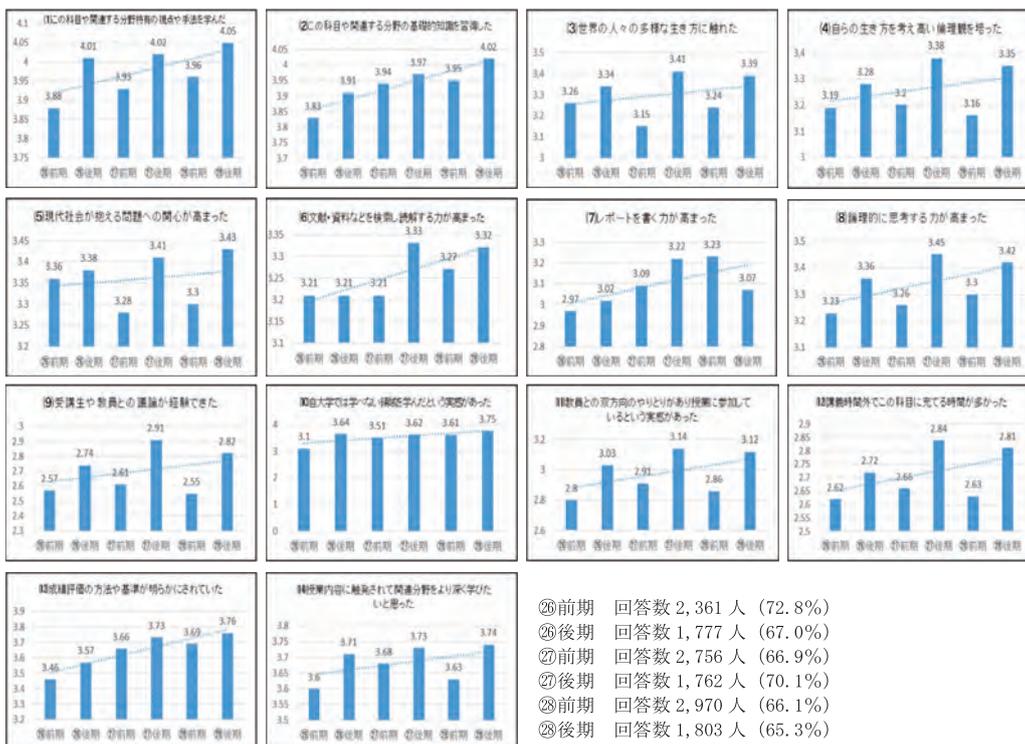
三大学共同の教養教育では、学びたくても自分の大学では触れることのできない分野の内容を学べました。自分の大学で提供されていない科目を学ぶことができたのは教養教育共同化のおかげだと思っています。また、他の大学の学生と一緒に授業を受けることで、他の大学ではどのようなことを学んでいるのかを垣間見ることができ、自分と他の大学の学生の違いを感じて、自分の学生生活を客観的に見ることができるようになったと思っています。（京都府立医科大学 医学部医学科 森田輝）

⑥ 「授業アンケート」の設問項目（抜粋）

様式2：p3・p22 関連

| Ⅵ この科目を受講してどのような感想を持ちましたか。 次の各項目に5段階で答えてください。 | 5 とても 思う | 4 やや 思う | 3 どちら もない | 2 あまり 思う ない | 1 全く 思う ない |
|--|----------------|---------------|-----------------|----------------------|---------------------|
| (1) この科目や関連する分野特有の視点や手法を学んだ | 3.88 | 4.01 | 3.93 | 4.02 | 4.05 |
| (2) この科目や関連する分野の基礎的知識を修得した | 3.83 | 3.91 | 3.94 | 3.97 | 3.95 |
| (3) 世界の人々の多様な生き方に触れた | 3.26 | 3.34 | 3.41 | 3.34 | 3.39 |
| (4) 自らの生き方を考え、高い倫理観を培った | 3.19 | 3.28 | 3.2 | 3.38 | 3.35 |
| (5) 現代社会が抱える問題への関心が高まった | 3.36 | 3.38 | 3.28 | 3.41 | 3.43 |
| (6) 文献・資料などを検索し、読解する力が高まった | 3.21 | 3.21 | 3.21 | 3.33 | 3.32 |
| (7) レポートを書く力が高まった | 2.97 | 3.02 | 3.09 | 3.22 | 3.23 |
| (8) 論理的に思考する力が高まった | 3.25 | 3.36 | 3.26 | 3.45 | 3.42 |
| (9) 受講生や教員との議論を経験できた | 2.57 | 2.74 | 2.61 | 2.91 | 2.82 |
| (10) 自大学では学べない領域を学んだという実感があった | 3.1 | 3.64 | 3.51 | 3.62 | 3.61 |
| (11) 教員との双方向のやりとりがあり、授業に参加しているという実感があった | 2.8 | 3.03 | 2.91 | 3.14 | 3.12 |
| (12) 課題や小テストなどのため、講義時間外でこの科目に充てる時間が多かった | 2.62 | 2.72 | 2.66 | 2.84 | 2.81 |
| (13) 成績評価の方法や基準が明らかにされていた | 3.46 | 3.57 | 3.66 | 3.73 | 3.69 |
| (14) 授業内容に触発されて、関連分野をより深く学びたいと思った | 3.6 | 3.71 | 3.68 | 3.73 | 3.63 |

各年度（前期・後期）の平均値推移（教育機能・学生の学びの質の向上が認められる）



⑦ 「共同化科目担当者会議」の開催実績

様式2：p1・p2・p3・p4・p23 関連

（共同化科目全体を育てていくコミュニティとしての機能を発揮）

| | | |
|----------|------------|--|
| 平成 25 年度 | ・ 25. 9.25 | テーマ「共同化の理念・目的、進め方、事例研究等」 |
| | ・ 25.11.26 | テーマ「数学の教養教育科目について」 対象：自然科学系科目担当者 |
| 平成 26 年度 | ・ 25.12.12 | テーマ「問う力・書く力を鍛える教養教育」 対象：人文・社会科学系科目担当者 |
| | ・ 26.10. 1 | テーマ「対話とフィードバック」のある授業を目指して |
| 平成 27 年度 | ・ 26.12.12 | 京都学担当者会議（新設科目等協議） |
| | ・ 27. 8. 5 | テーマ「多様な背景を持つ受講生と創る授業」 →理系教養科目のカリキュラムをどう工夫するか？ |
| 平成 28 年度 | ・ 28.10.31 | テーマ「共同化3年目を迎えて」 →授業で求められる配慮・工夫・成績評価の方法は？ |

別添資料-4

⑧ 京都三大学教養教育共同化フォーラムの開催 (平成 28 年 11 月) 様式 2 : p1・p6 関連

『今、求められる教養教育 — 京都からの発信 —』

三大学教養教育共同化事業で構築してきた「京都モデル」の到達点、三大学学生にとっての変化、教える側の手応えを示し共有することによって、今後の教養教育のあり方にひとつの指針を示す。



京都三大学合同交響楽団による演奏

- 【オープニング演奏】 京都三大学合同交響楽団
- 【基調報告Ⅰ】「教養教育共同化—何をめざすか」
- 【基調報告Ⅱ】「教養教育共同化—質保証をめぐって」
- 【三大学学生プレゼンテーション】
— 共同化授業や学生シンポジウム・講演会・合宿研修を通して学んだこと、
学びへの姿勢の変化等の発表—
- 【講評】 三大学教養教育運営協議会専門委員 同志社大学副学長 圓月勝博 氏

学生7グループがリベラルアーツゼミや下記のシンポジウム、宿泊研修について取組成果を発表



フィールドワーク
「意外と知らない植物の世界」



京都学「歴史学」



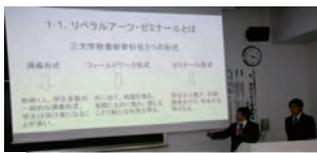
綾部市での宿泊型研修



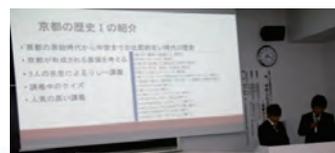
新入生歓迎講演会



学生シンポジウム



ゼミⅠ「感覚で探る問題解決の方法」



京都学「京都の歴史Ⅰ」

学生によるシンポジウム開催 (平成 27 年 11 月 8 日)

「人・サル・植物の関係から知の源流と未来を探る」

【研究発表テーマ】

- ① 「触れているようで触れられている！？—植物の生存戦略」
- ② 「味覚から考える食への工夫—サル、ヒト、植物とおいしさ」
- ③ 「Hand in hand —協調性を考える」
- ④ 「高山における環境の変化と適応の連鎖—比叡山を通してヴィルンガ山地の未来を考える」



・当日は、山極 壽一 氏 (京大総長)、松谷 茂 氏 (府立大客員教授・府立植物園名誉園長) をゲストコメンテーターに迎え、三大学学生・教職員のほか、京都・大阪の高校生も来場。
・三大学混成グループが、府立植物園、市立動物園、京大博物館、延暦寺などを度々訪問し、専門家の意見を仰ぎつつ、熱心に探求活動・フィールドワークに取り組んで準備。

綾部市で宿泊研修実施 (平成 28 年 9 月 15~16 日)

宿泊：綾部市里山交流研修センター
地域おこし活動団体や行政担当者との交流と新規事業の提案



柘の森の保護育成と特選品創出



民泊活動の調査



黒谷和紙の製作体験



課題の洗い出しと新規事業の提案



それぞれの視点を「まち冒険」レポートに



別添資料-5

⑨ 機構主催によるフォーラム、公開研究会等の開催

様式 2 : p1・p6 関連

| | |
|---|--|
| 24.12.27 公開研究会「高等教育機関連携による『地域学』と教育の共通化－キャンパス・コソツアム函館主催合同公開講座『函館学』の運営を手がかりに－（講師：田中浩司氏） | 26.1.25 三大学教養教育共同化フォーラム『「教養の時代」がやってきた』（講師：池上彰氏、桑子敏雄氏） |
| 25.2.3 三大学教養教育共同化フォーラム「時代が求める新たな教養教育を考える」（講師：板東眞理子氏、上杉孝實氏） | 26.3.17 公開研究会「理工系大学における高度教養教育への視座」（講師：吉永契一郎氏） |
| 25.3.8 公開研究会「松本大学の地域連携教育に学ぶ」（講師：住吉廣行氏、木村春壽氏、白戸洋氏） | 26.8.11 公開研究会「教養教育における学習コミュニティ型カリキュラム－長崎大学の教養教育改革を事例として－」（講師：山地弘起氏） |
| 25.3.19 公開研究会「生命倫理から臨床倫理へ－医学部/他学部の教養教育の一例として」（講師：森下直貴氏） | 26.10.18 シンポジウム「京都学事始－近代京都と三大学－」（講師：山本壯太氏） |
| 25.3.28 公開研究会「二枚貝で生涯学習を体験－リベラルアーツの原点に返る」（講師：大野照文氏） | 26.12.21 講演会「何のために学ぶのか－教養教育と複眼的思考－」（講師：永田和宏氏） |
| 25.7.4 公開研究会「『正当なる教養』をいかに配信するか（講師：山口健二氏） | 27.2.19 公開研究会「リベラルアーツとしての自然科学カリキュラム」（講師：小笠原正明氏） |
| 25.7.26 公開研究会「教養教育の再構築とカリキュラム・ポリシー『問う力』を育てる教養教育の実践」（講師：東谷護氏） | 27.3.19 公開研究会「リベラルアーツとしての数学カリキュラム－多様な学修背景・学修目的をもった受講生とともに－」（講師：鈴木寛氏） |
| 25.9.10 公開研究会「学生調査の理論と調査票の設計」（講師：谷田川ルミ氏） | 27.11.8 学生シンポジウム「人・サル・植物の関係から知の源流と未来を探る」（発表者：三大学学生、ゲスト・コメンテーター：山極寿一氏、松谷茂氏） |
| 25.10.15 公開研究会「コンピテンシー型教養教育の問題と再構築の指針－高等教育の質保証をふまえて－」（講師：杉原 真晃） | 27.12.13 府民公開講座「グローバル社会をどう生きるか－多文化交流と教養教育－」（講師：赤阪清隆氏） |
| 25.11.16 三大学教養教育共同化フォーラム「不安を楽しめ！－教養教育がはぐくむ社会認識の方法－」（講師：鴻上尚史氏） | 28.2.6 教養教育質保証フォーラム「現代における市民性とは何か？－グローバル化時代の教養と教養教育の課題－」（講師：藤田英典氏） |
| 25.12.16 公開研究会「アクティブ・ラーニングスタジオを活用した教養教育の高度化－東京大学駒場キャンパスを事例にして－」（講師：林一雅氏） | 28.4.18 新入生歓迎講演会「4/18、内田樹が、三大学に来る。」（講師：内田樹氏） |
| | 28.11.19 京都三大学教養教育共同化フォーラム「今、求められる教養教育－京都からの発信－」 |

公開研究会参加大学等（98 大学・機関等）

藍野大学、茨城大学、追手門学院大学、大阪経済法科大学、大阪工業大学、大阪市立大学、大阪電気通信大学、大阪府立大学、大谷大学、岡山大学、岡山理科大学、香川大学、鹿児島大学、華頂短期大学、神奈川工科大学、金沢工業大学、関西大学、関西女子短期大学、関西学院大学、関東学院大学、九州工業大学、九州産業大学、九州歯科大学、九州大学、京都光華女子大学、京都工芸繊維大学、京都産業大学、京都女子大学、京都市立芸術大学、京都精華大学、京都聖母女子学院短期大学、京都大学、京都ノートルダム女子大学、京都府立医科大学、京都府立大学、京都文教大学、京都薬科大学、熊本大学、県立広島大学、光華女子学園、国際教養大学、甲子園大学、神戸女子大学、埼玉学園大学、サイバー大学、四天王寺大学、芝浦工業大学、湘南工科大学、成城大学、摂南大学、創価大学、園田学園女子大学、宝塚大学、拓殖大学、千葉大学、千葉商科大学、筑波技術大学、帝京大学、東京農工大学、東京理科大学、東京未来大学、同志社大学、東北大学、奈良女子大学、奈良先端科学技術大学院大学、奈良文化女子短期大学、南山大学、函館大学、浜松医科大学、兵庫大学、福岡大学、佛教大学、放送大学、松本大学、明治国際医療大学、明治大学、桃山学院大学、山口大学、山形大学、山梨大学、立命館大学、龍谷大学、立教大学、明石工業高等専門学校、木更津高等専門学校、京都市立田辺中学校、京都市立塔南高等学校、京都市立堀川高等学校、ルネサンス大阪高等学校、全国大学生生活協同組合連合会 広報調査部、大阪情報コンピュータ専門学校、明治東洋医学院専門学校、学校法人河合塾 教育研究部、株式会社リアセック、メディアサイト株式会社、有限会社くらむぼん出版（大学ジャーナル）、大村技術コンサルタント、市立福知山市民病院

⑩ 機構発行の報告書（機構ホームページに掲載 <http://kyoto3univ.jp/p130>）

様式 2 : p23 関連

（取組内容や授業研究事例等を盛り込んだ「報告書」を毎年発行し、関係機関への発信と教員等関係者で情報を共有）



平成 24 年度



平成 25 年度

平成 26 年度
別添資料－6

平成 27 年度



平成 28 年度